

新たな発見・新たな出会い

——第7回オーストラリア研修報告——

◇期 日：令和6年3月2日（土）～11日（月）

◇場 所：オーストラリア ニューサウスウェールズ州

パートナー校セント・ジョン・ポール・カレッジ コフスハーバー各地

◇参加者：本校1学年生徒7名・2学年生徒9名 計16名

◇引率者：奥井結子先生・中村拓彦先生

私たち16名は10日間にわたって、オーストラリアでたくさんものに出会い、人と交流し、そこから多くの学びを得ました。出発までに事前研修として、昨年の12月から現地での研究発表の準備や、現地の地理や生物に関する講義を受け、また、各自が英語で円滑にコミュニケーションをとるために英語学習に努めてきました。

私たちの本格的な異文化との遭遇は、3月3日のコフスハーバー到着後から始まり、そこで初めてお世話になるホストファミリーとの出会いがありました。研修として、バディとともに、ドリゴ国立公園やドルフィン・マリン・コンサベーションセンター、ナショナル・マリン・サイエンスセンターを訪れる中で、私たちが今までに日本で学んだことを伝え、また新たな知識を英語で学ぶことができました。中でも日本との違いで印象的だったのは、セント・ジョン・ポール・カレッジでの授業でした。化学の授業では、生徒一人ひとりがテーマ設定をして実験や観察を行ってレポートを作成していたり、宗教の授業では、ジーザスの生涯について実演を交えた授業があったりと、日本とは異なる教科や授業形態の見聞は非常に貴重な体験となりました。



一方で、生活様式や、食事、価値観や考え方などにおける日本との違いだけでなく、共通点を見つけることもできました。それは人の温かさです。ホストファミリーの方々が、英語でのコミュニケーションを助けてくださったり、身の回りのことにも気を使ってくださったりして、海外での生活に慣れない私たちにやさしく接して下さったからこそ、毎日充実した研修を行うことができました。また、セント・ジョン・ポール・カレッジの生徒たちも、とてもフレンドリーに接してくれて、休憩時にはスポーツを一緒に楽しんだり、日本語を教えてあげたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。緊張や不安な気持ちと新たな出会いへの期待とともに始まったこの研修が終わり、空港でホストファミリーとの別れの時が来ると、寂しく、悲しい気持ちになりましたが、それぞれが8日間のホームステイの感謝を伝えることができました。



オーストラリアという多文化社会の中に身を置くことで、日本では得られない体験から考え、多くの感じたこと、新たな発見がありました。特に、積極的に話をして、相手とコミュニケーションをとったり、理由や根拠をもとに論理的に考えて話したりするという部分は、現在の私たちの学校生活でも必要だと考えています。高校生のこの時期、私たちの価値観の形成や将来の目標設定などに様々な良い影響を与えてくれたこの研修は、全員のかげがえのない思い出であり、それぞれの重要な人生の一部となりました。

